



# 農薬影響対策費のうち

## 農薬の花粉媒介昆虫及び水生植物に対する影響調査(新規)

平成29年度要求額  
92百万円(新規)

### 事業目的・概要等

#### 背景・目的

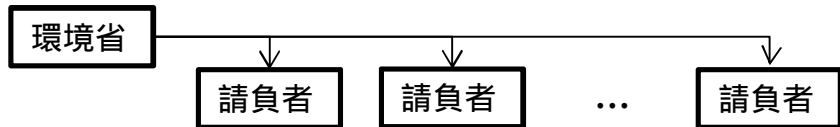
- ・欧米ではミツバチの減少が問題化し、その原因としてネオニコチノイド系農薬が疑われ、一部で規制を実施。家畜ミツバチに比べ、日本ミツバチなど野生花粉媒介昆虫については、農薬の影響に関する情報がほとんどなく、広域にわたる統一的な調査が急務。
- ・水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準については、一部の試験生物種を対象とした急性毒性試験を基に設定。新たな評価手法を開発するとともに水生植物を含めた水域生態系を考慮したリスク評価を行う必要。

#### 事業概要

- ・ネオニコチノイド系農薬等が花粉媒介昆虫(野生ハチ)に与える影響調査等を実施。
- ・水生植物と水産動植物の関係性及び農薬の水生植物への影響について実態調査を実施。

#### 事業スキーム

環境省から研究機関等に請負業務を発注。

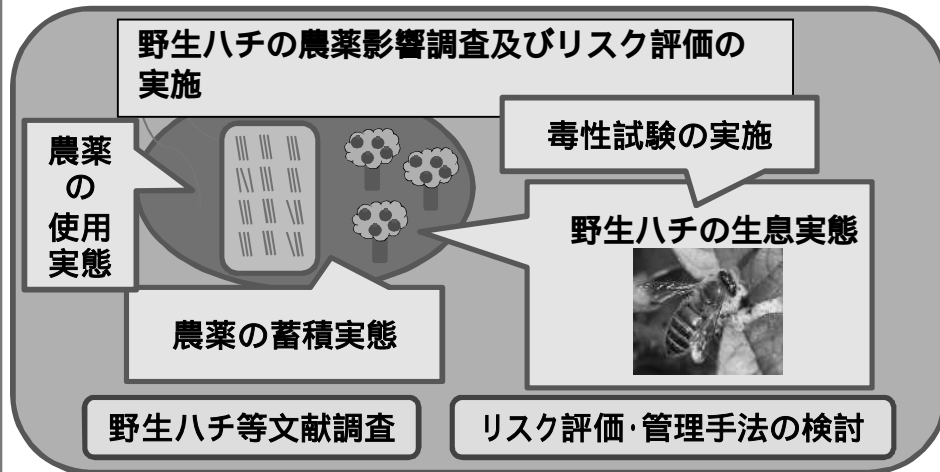


#### 期待される効果

生態系保全のための適切な農薬のリスク評価・管理を実施。

### イメージ

#### 農薬の花粉媒介昆虫に対する影響調査



#### 農薬の水生植物に対する影響調査

